

# CA Common Services for z/OS

リリース ノート

リリース 14.1.00



このドキュメント(組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中止、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA の製品は以下のとおりです。

- CA JARS® DSA Resource Management Option
- CA MICS® Resource Management (CA MICS)
- CA NetSpy™ Network Performance
- CA Network and Systems Management (CA NSM)
- CA NSM NetMaster® Option
- CA OPS/MVS® Event Management and Automation (CA OPS/'MVS EMA)
- CA Service Desk
- CA Easytrieve® Report Generator (CA Easytrieve Report Generator)

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章：既存機能の拡張</b>	<b>7</b>
USERMOD の CAIRIM 制御ステートメントへの置換 .....	7
RACF サイトに必要なカスタマイズの変更 .....	7
CAISDI/els と CAISDI/med のインターフェースの統合および機能の追加 .....	10
データセットの変更 .....	11
CA Common Services でパッケージされた CA Easytrieve Report Generator .....	12
Datacom/AD .....	12



# 第 1 章：既存機能の拡張

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[USERMOD の CAIRIM 制御ステートメントへの置換 \(P. 7\)](#)

[RACF サイトに必要なカスタマイズの変更 \(P. 7\)](#)

[CAISDI/els と CAISDI/med のインターフェースの統合および機能の追加 \(P. 10\)](#)

[データセットの変更 \(P. 11\)](#)

[CA Common Services でパッケージされた CA Easytrieve Report Generator \(P. 12\)](#)

[Datacom/AD \(P. 12\)](#)

## USERMOD の CAIRIM 制御ステートメントへの置換

"旧リリースでは、CA Common Services for z/OS のインストール後、RACF 製品のために CAISSF を使用しているクライアントはユーザ修正(USERMOD)をインストールする必要がありました。この変更では、CAS9RACL および CAS9SAFC に埋め込まれたクラステーブルの更新も必要です。

このリリースでは、そのユーザ修正は CAIRIM 初期設定ルーチン内の制御ステートメントに置換されます。インストール後、カスタマは既存ユーザ修正で任意の RACF クラステーブル値も識別し、CAIRIM 制御ステートメントを使用して必要なパラメータをコーディングします。手順については、「インストールガイド」を参照してください。クラステーブルエントリを必要とする新しい CA 製品がインストールされていない限り、これは 1 回のみの変更です。

## RACF サイトに必要なカスタマイズの変更

CA Common Services のこのリリースでは、RACF を使用してサイトに対してカスタマイズが実行される方法に変更がありました。

RACF を使用しない場合、または CAS9SAFC または CAS9RACL のいずれでも RACF セキュリティテーブルをカスタマイズしていない場合は、このセクションをスキップしてください。

CA Common Services は以前にロード モジュールとサンプル ソース コードの両方として CAS9SAFC と CAS9RACL を配布しました。特定のニーズを満たすために、これらの 2 つのモジュール内でセキュリティーテーブルを変更できました。これらのモジュールは配布されなくなり、セキュリティーテーブルはモジュールから削除されました。CAIRIM は、現在では動的にセキュリティーテーブルを作成するようになっています。CAIRIM には、動的テーブルのカスタマイズに使用できる新しいパラメータがあります。テーブルにカスタマイズの詳細については、「インストール ガイド」で「RACF カスタマイズ用の CAISSF」を参照してください。また、セキュリティ製品がアクティブではない場合に CAS9INIT が CAISSF を初期化する方法については、「Administration Guide」を参照してください。

選択したパラメータ ライブラリ内にメンバを作成します。メンバ名は、ユーザの社内基準に合ったものであれば構いません。デフォルトのライブラリは CAI.CAWOOPTN です。また、デフォルトのメンバ名は RACFLIST です。CAS9 プロシージャには以下の DD ステートメントが含まれます。

```
//*CAIRACF DD DISP=SHR,DSN=&CAWOOPTN(RACFLIST)
```

ステートメントのコメントを外し、ユーザの要件を満たすために DSN とメンバ名を更新します。

動的なテーブルには、以下のエントリが含まれます。

CA ソリューション クラス名	変換されたクラス名	FASTAUTH	CICS で使用
ACAPPL	AC@PPL		
ACCBPROC	AC@BPROC		
ACDIALOG	AC@DLG		
ACLIST	AC@LST		
ACMSG	AC@SG		
ACPANEL	AC@ANEL		
ACREPORT	AC@EPORT		
ACSQL	AC@QL		
CAADMIN	CA@DMIN	YES	
CACCFDSN	CA@SNCCF		
CACCFMEM	CA@EMCCF		
CACMD	CA@MD	YES	YES

CA ソリューション クラス名	変換されたクラス名	FASTAUTH	CICS で使用
CADDS	CA\$DS	YES	
CADOC	CA@OC		
CALENDAR	CA@ENDAR	YES	
CALIBMEM	CA@IBMEM		
CAREPORT	CA@EPORT	YES	
CATAPE	CA@APE	YES	
CAVAPPL	CA@APPL		
DATETAB	DA@ETAB		
DCTABLE	DC@ABLE	YES	
DFTABLE	DF@ABLE	YES	
DOCVIEW	DOCVIEW	YES	
DRTABLE	DR@ABLE	YES	
DSTABLE	DS@ABLE	YES	
DTADMIN	DT@DMIN	YES	
DTSYSTEM	DT@YSTEM	YES	
DTTABLE	DT@ABLE	YES	
DTUTIL	DT@TIL	YES	
DUC	TD\$CTRN	YES	
DXTABLE	DX@ABLE	YES	
JOBNAME	JO@NAME		
MICCMD	MI@CMD	YES	
OPCMD	OP@MD	YES	
PANEL	PA@EL	YES	
RECID	RE@IPID	YES	
SCHEDULE	SC@EDULE		
STATION	ST@TION		
SUBMIT	SU@MIT		
UNVEDIT	UN@EDIT		

CA ソリューション クラス名	変換されたクラス名	FASTAUTH	CICS で使用
UNVRPRT	UN@RPRT		
UNVPGM	UN@PGM		
VMANAPPL	VM@NAPPL		
VTRMNODE	VT@MNODE		

過去に行ったカスタマイズに基づいて、必要に応じ制御ステートメントでテープルを更新します。

#### 例

CACMD が今後 fast RACF チェックをサポートせず、CICS の CAADMIN を使用するように変更するには、以下の制御ステートメントを使用してメンバを作成します。

```
RACFCLASS CACMD,CA@MD,FASTAUTH=NO  
RACFCLASS CAADMIN,CA@DMIN,FASTAUTH=YES,CICS=YES
```

## CAISDI/els と CAISDI/med のインターフェースの統合および機能の追加

新規アプリケーションが追加され、既存の CAISDI/els (イベントライブラリサポート) および CAISDI/med (MVS Event Director) インターフェースに拡張機能が提供されました。CAISDI/els および CAISDI/med の機能が組み合わせれ、常駐アドレス空間で実行される 1 つのアプリケーション (CAISDI/elmds) になりました。

CAISDI/elmds は、CAISDI/els および CAISDI/med を使用する CA 製品に以下の機能を追加します。

- CA 製品は潜在的に、チケットを "更新" および "クローズ" できるようになりました。
- CA 製品は潜在的に、チケットを作成したコンポーネントの識別において、より多くの詳細を提供できます。
- CAISDI/elmds が初期化できるのは、CAISDI/soap Server または Service Desk のいずれかが利用可能ではない場合です。
- トレーシングとメッセージングは単一の SYSOUT に統合され、診断に役立つようにスピンすることができます。

- 新規メッセージは、WTO のメッセージとして示された CAISDI/els および CAISDI/med メッセージを置換します。WTO メッセージとしても書き込まれるように個別のメッセージを指定できる場合、メッセージファイルが配信されます。既存の WTO メッセージを、WTO で表示されないように変更できます。
- CAISDI/els サポート用に縮小された CSA (共通ストレージ領域) 使用状況があります。

## データ セットの変更

CAW0PLD データ セットをシステム linklist へ追加するのが必須になりました。CA Common Services for z/OS の前リリースでは、CAW0PLD データ セットをオプションでシステム linklist に追加できました。

注: CA Common Services for z/OS r14.1 には BASE および OPTIONAL コンポーネントのみが含まれます。LEGACY および MFNSM コンポーネントは CCS v14.0 レベルのままになります。データ セットの観点から、この構成は、CCS v14.0 を使用している場合は、継続して CCS v14.0 の低レベル修飾子 CCCS\* および CNSM\* データ セットを使用することを意味します。実行中の低レベル修飾子 CAW0\* データ セットのみを CCS r14.1 レベルの CAW0\* データ セットに置換します。

## CA Common Services でパッケージされた CA Easytrieve Report Generator

CA Common Services for z/OS (CCS) リリース 14.1 以降、インストール プロセスが異なる別の製品として、CA Easytrieve Report Generator は CCS でパッケージングされるようになりました。この再パッケージにより、複数の CA Easytrieve Report Generator インストールの必要性がなくなり、それらのインストールを管理およびメンテナンスする手間が省けました。

アクティブな CA Easytrieve Report Generator r11.6 ライセンスがある場合、CCS でパッケージングされるコピーをインストールする必要はありません。製品機能はすべて利用可能です。アクティブなライセンスがなく、CA Easytrieve Report Generator を必要とする CA 製品を実行している場合は、CCS でパッケージングされるコピーをインストールします。製品機能は、他の CA 製品で配布されるジョブをレポートする CA Easytrieve Report Generator の実行に制限されます。

CA Easytrieve Common Service ジョブを実行するために使用する JCL にマクロライブラリ用の DD ステートメントが含まれる場合、このライブラリの DD 名は通常 PANDD ですが、そのマクロライブラリの DSN はそのジョブで使用される実行可能ファイルライブラリの DSN に対応する必要があります。マクロライブラリおよび実行可能ファイルライブラリは、CA Easytrieve Report Generator の同じインストールからである必要があります。

## Datacom/AD

CA Common Services for z/OS r14.1 は、Datacom/AD r14 で動作するように設計され、テストされます。CA Common Services for z/OS r14.1 は、Datacom/AD r12 でも動作します。詳細については、「*Readme*」を参照してください。

「インストール ガイド」に記載されている展開手順は、Datacom/AD r14 を考慮して完全に改訂されています。

この手順を使用する場合は、CA Common Services for z/OS の前リリース以来変更がないかどうか情報をよく確認してください。